

## 神津島の火山活動解説資料（令和8年1月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1）

前浜南東監視カメラ（天上山の南西約3km）による観測では、天上山山頂部に噴気は認められません。

#### ・地震や微動の発生状況（図2-①②、図3）

地震活動は低調に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

#### ・地殻変動の状況（図2-③～⑥、図4）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



図1 神津島 天上山山頂部の状況（1月31日、前浜南東監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の火山活動解説資料（令和8年2月分）は令和8年3月9日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokujii.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

【計数基準の変遷】	
高周波地震	：2010年10月1日（観測開始）～
低周波地震	：2010年8月2日～2013年9月30日
	2013年10月1日～
	天上山西から半径5km、深さ15km以内
	天上山西上下動振幅0.8μm/s以上
	天上山西上下動振幅4.0μm/s以上

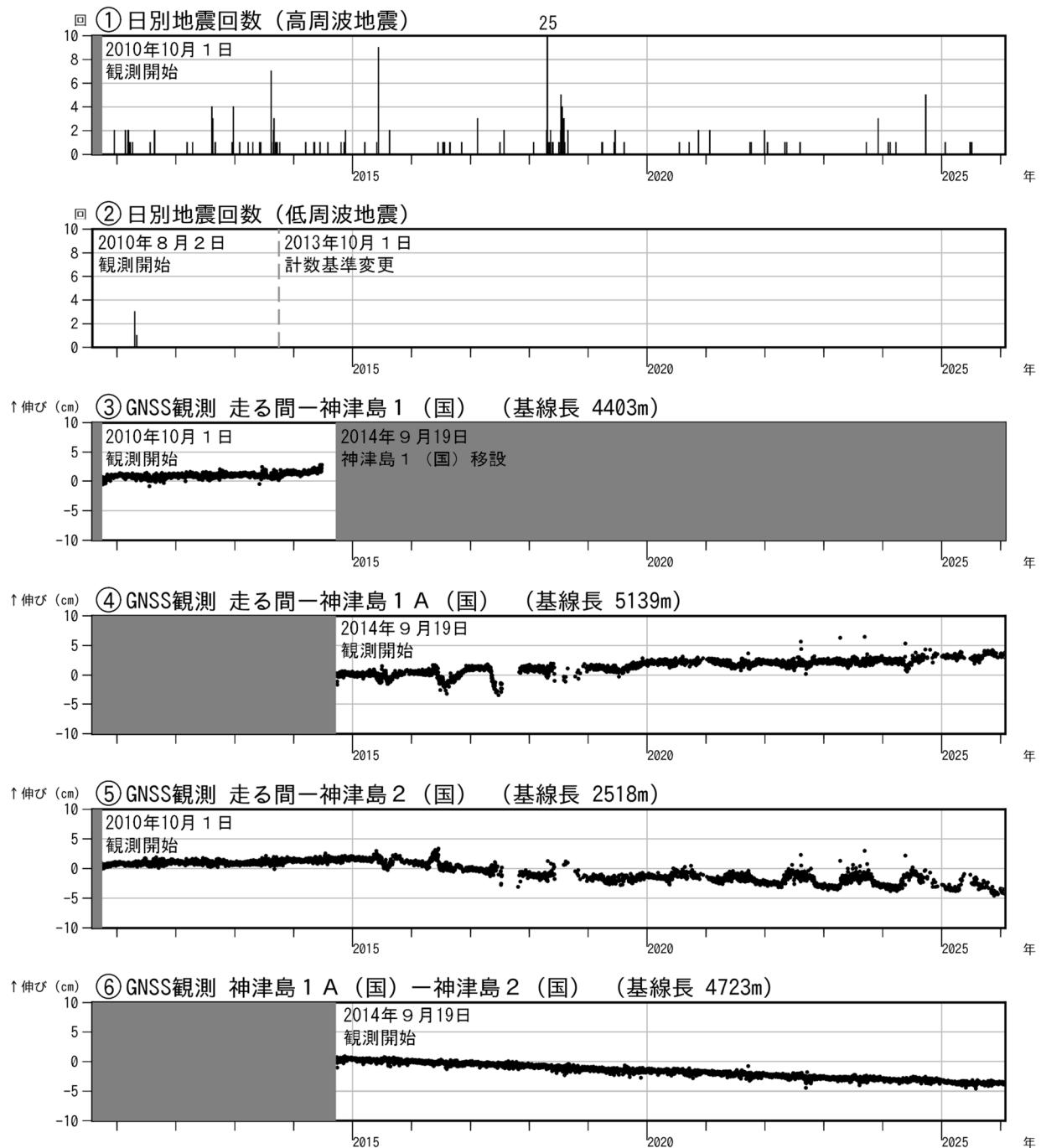


図2 神津島 火山活動経過図(2010年8月2日～2026年1月31日)

- ①、③～⑥：灰色部分はデータのない期間を示します。
- ③～⑥：図4のGNSS基線③～⑥に対応しています。空白部分は欠測を示します。
- ④、⑤：走る間観測点付近の植生による影響により、周期的な変動が見られます。
- 2014年9月19日に、神津島1（国）は、神津島1A（国）に移設されました。
- データの解析方法を2010年10月及び2016年1月に変更しています。
- (国)：国土地理院

- ・地震活動は低調に経過しました。
- ・GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。

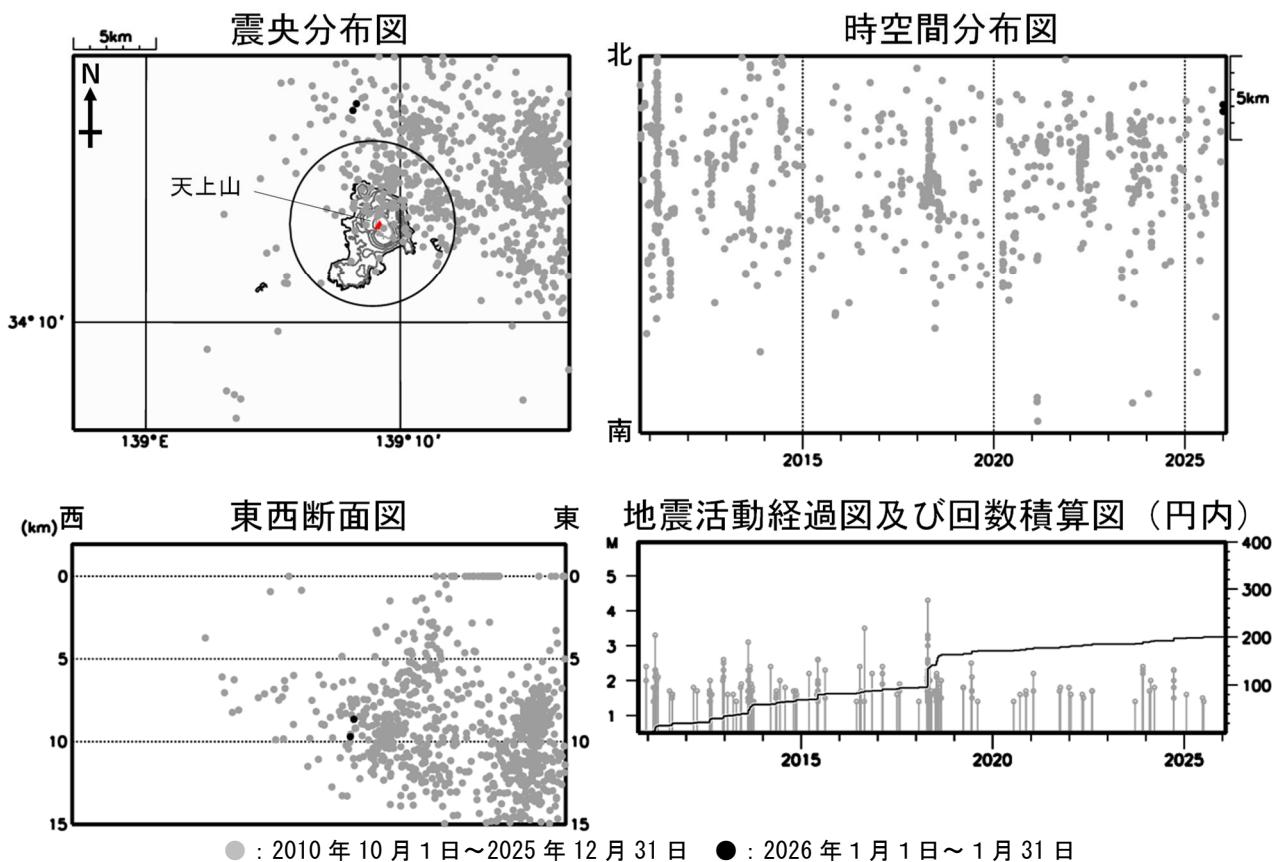
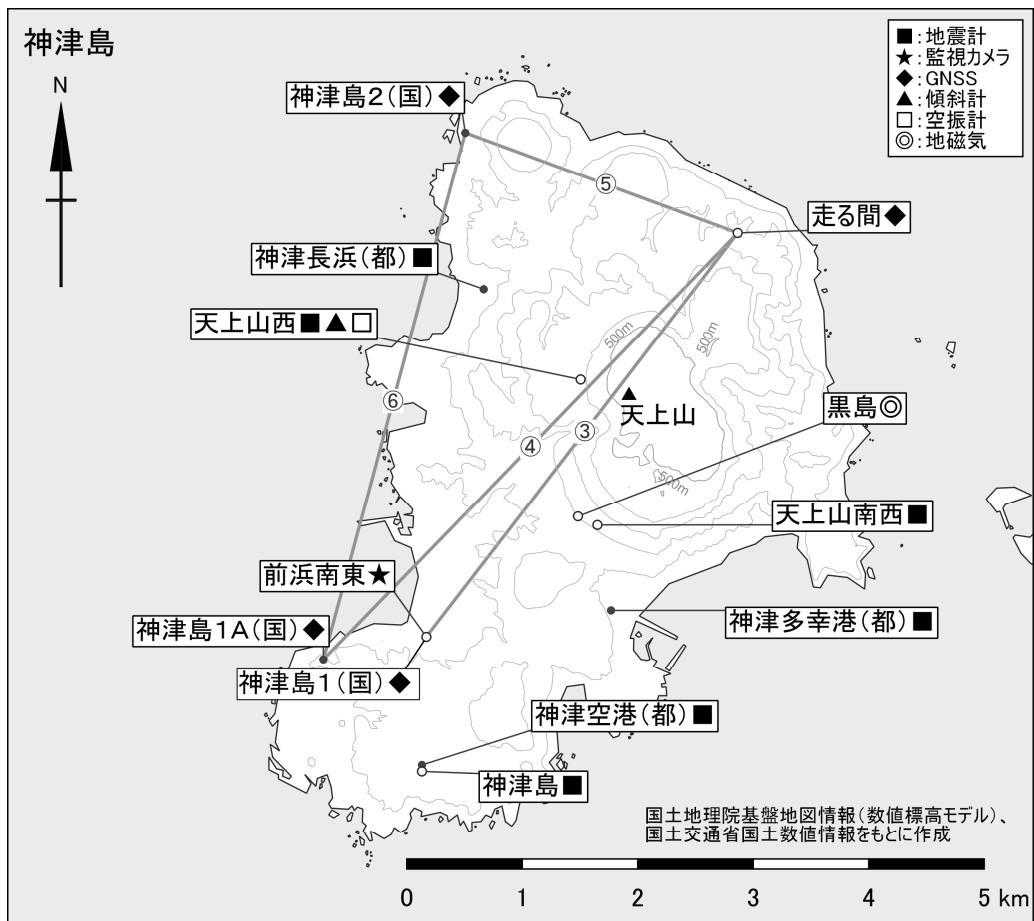


図3 神津島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2010年10月1日～2026年1月31日）  
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020年9月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しています。  
 M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.4以上の地震を示しています。  
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。  
 計数対象（天上山西から半径約5km、深さ約15km以内）以外の地震が含まれるため、図2-①の日別地震回数（高周波地震）とは異なります。  
 震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（天上山西から半径5km、深さ15km以内）の範囲を示しています。  
 地震活動は低調に経過しました。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(国): 国土地理院、(都): 東京都

図4 神津島 観測点配置図

GNSS 基線③～⑥は図2の③～⑥に対応しています。

神津島1 から神津島1Aに2014年9月19日移設。